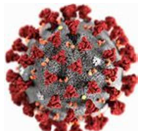
四谷の千枚田だより

第199号



コロナウイルス

コロナウイルス

昨年十二月から中国武漢市で発生した原因不明の肝炎は、新型コロナウイルスと報告。二月三日、豪華客船ダイヤモンド・プリンセスが横浜港に寄港、五日に新型コロナウイルスが乗船者十人の陽性を確認。横浜港の大黒ふ頭で長期にわたって足止めとなった。

マスク爆買い、二月二十七日、政府が全国の小中高校一斉休校を要請。その後、往来、国内外渡航、イベント等々の自粛、延期、中止。経済に大きな影響を及ぼしている。

二十三日、この項をまとめる時点のニュースではオリンピックにまで及ぼす世界的脅威までに及んでいる。

各種行事への影響

・三月十二日、愛知県国際課、オーストラリア・ビクトリア州の行政調査(文化財)の対応　中止

・四月三日、横浜ゴム新城工場新規採用社員、幹部研修　中止

・四月五日、パワートレイル　中止

地名伝説

私たちの住む集落には連合区と四谷区の二つの行政区があり、両地区を合わせて「連谷」と呼び、小学校も明治三十二年に四谷学校から両地区の名前から連谷小学校と改称、校区一体となり各種活動、行事も行われてきた。その、地域の核であった学校もが平成二十八年、百四十四年の歴史に幕を下ろし、閉校になった。村から子供の声が聞こえなくなって早四年…。案外知っているようで、忘れ去れようとした事もある。そこで、連谷の「地名伝説」と題して纏めてみた。なお、「四谷の千枚田だより」を愛読いただいている旧海老町の地名変遷も併せて紹介させていただく。

連　合

海老から与良木峠を越えて清崎に通じている県道に沿った集落と西の須山集落を含めた地域を連合と称している。この地域は、明治初年までは真菰、方瀬、小野、須山の四つの村であったが、明治十一年に合併した時に連合という名が付けられた。

この連合は、四つの村が連なり合って村を作ったので、合併した意味をそのまま表した村名である。

連合の名は、明治二十二年に海老村と合併するまで村名となっていたが、それ以降は大字名として残っている。

四　谷

旧連谷小学校の横を通って仏坂を越え、神田へ通じている県道の周辺を四谷と呼んでいる。

ここは合戸川の流域に当たっていて一つの大きな谷を形成している。古宿、身平橋、大林、大代の四つの集落は、明治の初年までは独立した村であったが、明治十一年に合併して新しい村を作った。

この時、四つの谷の村が合併したので四谷村と呼ぶこととなった。この四谷村は明治二十二年に海老村と合併するまで村名となっていたが、それ以降は大字四谷として残っている。

海　老

海老の名は古くから使われているが、集落の形がエビに似ていることからエビの地名が付けられた。また、この付近には昔から川エビが沢山いたので海老の名で呼ばれるようになったともいう。

副　川

明治初年までは双瀬村と大石村に分かれていた。明治十一年の合併により副川村が誕生した。「副」という字は「そえる」とか「たすける」の意味があり、海老川に沿った二つの村が沿いあって村をつくるという意味を含めて付けられた。明治二十二年、鳳来寺村が発足した時以来、副川の名は残したまま、現在も玖老瀬副川、海老副川と呼んでいる。

村が隣り合わせに「副川」の地名があることは、市鳳来北西部自治区にとっても、いろいろな点で不便はないものか、案じてみた。

中　島

明治初年までは、山中村、湯島村と呼ばれていたが明治十一年の合併で両者の「中」と「島」とをとって付けられた。湯島は集落の少し上の所(豊川)の川の中に島があり、昔そこから湯が湧き出ており、この湯の島が地名となったと云う。

連谷小学校の校章

地域の皆さんにお礼

今までに数多くの大学生が卒業論文に「四谷の千枚田」を題材に取り上げ、社会へと巣立っていった。

コロナウイルスの影響で、今月の千枚田だよりを書くに題材不足。そうだ、今まで多くの大学生が卒論のために千枚田の耕作者や地域住民に「お世話になりっぱなし」で卒業しただか、どうだか？、その場限りの音信不通、無礼極まりない。それを書こう、と思っていた矢先、小雨しぐれる夕方、神谷君が訪れた。胸の中がカッカの最中、口頭一番、あんた、運がよかった、明日なら今まで面倒をみてやった連中の「悪口雑言」を書くところだった。「まぁ、上りん」と、もてなした。

神谷君は他の学生と違ったところは、ボランティア活動や地域の行事にも積極的に参加、酒は呑まなかったが、飲んだり食ったりと地域住民に積極的に溶け込み、活動を通して研究を重ねた。その集大成として「棚田景観の保全に対する地域内外住民の意識と保全活動の在り方―四谷の千枚田を事例に―愛知教育大学　２０１９年度卒業論文　神谷陽斗」として編纂。その一冊をいただいた。お礼に「四谷の千枚田だより」一冊と哺乳類・魚類などの書を贈った。

神谷君はお世話になった地域の皆さんに感謝、改めて邪魔にならないよう、お邪魔、お礼申し上げますし、お手伝いにも訪れる。と語った。

身平橋組最後の山の講

三月一日、身平橋組は春の山の講を行った。山の神様は諸説あるが、春の祭りは旧暦の二月七日で御山で大火を焚き、酒の肴に海の幸や「おはたき」などを焼き、お神酒をいただく。ワイワイ、ガヤガヤ、やかましくて寝ておれん、と山の神様は起きて田の神となり、田んぼをみまわり、豊作を見届けて秋の山の神様の祭りで眠りにつくという。

山の神様は女性であり、ブスでやきもち焼き、ヒステリーだそうで、時々、「うちの山の神」ということを聞く、これは、できれば言わないほうが家内安全につながる。…と思う。

訪　問

三月三日、オーストリア研究者Dr. Mariams Penker は千葉県大山の千枚田において棚田の保全、活動などの研究論文に着手、その研究の一環として名古屋大学大学院　環境学研究科　香坂教授の協力を得て来訪。女史は棚田の保全に行政支援、助成・交付金等々制度の中身を鋭く突いてきた。

まわり信心

春彼岸の二十日、身平橋組の百万遍念仏が海源寺で行われた。各戸が手作りのぼた餅や寿司などを先祖の位牌にあげ、大縄の数珠を回しながら南無阿弥陀仏を百八回唱え、無病息災・家内安全を願い、お下がりを頂いた。今回はコロナウイルスの影響か？袋菓子が多かった。

発　行　令和二年四月一日
文　責　鞍掛山麓千枚田保存会
小山舜二